

■ 6. 第3段階：介護老人保健施設介護技術3（第5～7週） ■

●時間数

105時間

●到達目標

- ・ 尊厳と自立支援の視点で直接介護を体験し、説明できる

●課題

- ・ リハビリやレクリエーションの意義を理解する
- ・ 障害高齢者の日常生活自立度判定基準を知る
- ・ 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を知る
- ・ 認知症ケアの基本を知る
- ・ 多職種協働で実施していることを知る
- ・ 介護の総合性、関連性を知る

●移動・リハビリ

- ・ 軽度者への単独介助
- ・ 生活リハビリの視点、能力の維持と拡大
- ・ 屋外での移動介助、生活範囲拡大への介助

移乗介助を安全、安楽に行えるようにリハビリ専門職からの指導を改めて受ける。利用者の力を引き出しつつ、理にかなった介助をすることは、介護職の腰痛防止ともなることを理解する。車いす介助、歩行介助で屋外に出る際には、屋外は室内との気温差、道路の段差、坂道や予想外の事態もあり得るので、利用者の当日の健康状況を見定めるほか、訓練生への事前の介護技術指導を行う。外出は職員が同行するなどの細かい配慮を行い、決して事故を起こさないようにする。ふだんとは違った環境での活動では、訓練生が気づくことは多いはずであり、指導者は訓練生が利用者を患者ではなく生活者として受け止め、老健施設のリハビリや役割を理解するよう指導する。

●栄養と食事

- ・ 軽度者への単独介助
- ・ 食事環境づくりと食欲
- ・ 誤嚥を防ぐ
- ・ 胃ろうの利用者と食事

高齢者に多い低栄養と脱水を知り、人間にとって水分が重要であることを改めて科学的に理解する。そのうえで、脱水の有無の簡単な見方を知る。また、嚥下困難な利用者の水分摂取が容易になる工夫を知り、準備できるようにするとともに、軽度者への介助が不安なくできるよう指導する。

●排泄

- ・ 排泄方法の選択
- ・ 上手な声かけ方法
- ・ 便秘、下痢等への対応
- ・ ポータブルトイレ設置方法、清潔管理
- ・ おむつ交換補助

これまで準備してきた排泄介助を積極的に行うようにする。排泄手段の選択、声かけ、移動、便器への移乗、衣服の上げ下ろし、排泄介助は多くの総合的な技能を駆使しなければならない。個々の利用者を知ったうえで基本手技を応用した適切な排泄援助ができるようにする。また、排